


おはなしトレイン

ふゆのフクフク号

学年ごとに おすすめの本 を しょうかい します。ゆきうさぎのマーク  は 読みやすいおはなし。

ゆきだるまのマーク  は すこし長めのおはなし です。ぜひ、チャレンジしてください。



作/宮沢賢治
絵/堀川理万子
岩崎書店

『すいせん月の四日』



赤い毛布にくるまった子どもが、カリメラのことを考えながらうちへいそぎます。象の形をした雪丘の上には、2ひきの雪おいの(おおかみ)をつれて、白くまのぼうしをかぶった雪童子(子ども)が歩いています。きょうはすいせん月の四日、雪童子たちは雪をふらせにきたのです。少しこわくてふしぎなお話、でもさいごは心あたまる冬の物語です。

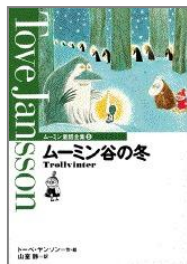


作/ジャンニ・ロダーリ
訳/関口英子
岩波書店

『青矢号 おもちゃの夜行列車』



おもちゃ屋のショーウィンドウに飾られている犬のぬいぐるみコインは、いつもおもちゃを見にくる少年フランチェスコが、家がまずしいために大変な生活をしていることを知ります。コインは勇気を出しておもちゃたちを説得し、1年に1度よい子がおもちゃをもらえる日に、電気機関車青矢号におもちゃをのせて、フランチェスコをはげましく出発します。



作・絵/トーベ・ヤンソン
訳/山室静
講談社

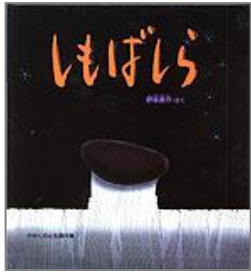
『ムーミン谷の冬』



みんなと同じように冬眠に入ったムーミントロールは、なぜだか一人、目を覚ましてしまいました。初めて自にした冬は、寒く、真っ暗で、静かなもの。戸惑うムーミンでしたが、冬にしか出会えないものたちとの交流を通して、自分の世界を広げていきます。冬のムーミン谷を描いた唯一の作品です。北欧の冬の寒さを想像しながら、楽しんでください。

1・2年生

『しもばしら』



さく/野坂勇作
福音館書店

みなさんは、しもばしらを知っていますか？ 畑でもしもばしらを見つけたは一ちゃんは「どうやってできるのかな」と思い、おばあちゃんに聞いてみました。

うんとさむい日の次の朝、みなさんも校ていなどでしもばしらをさがしてみましょ。本にはしもばしらを、れいとうこでつくる方法ものっていますよ。

3・4年生

『雪の結晶ノート』



さく/マーク・カッシーノ
ジョン・ネルソン
訳/千葉茂樹
あすなる書房

雪の結晶はどのようにしてできるのでしょうか？ その過程とひみつを美しい写真とイラストで紹介しています。6本の枝をのばした星のような結晶、六角形のドロップのような結晶、柱のような結晶。その形は雲の中の湿度と気温によって変化します。雲の中で成長した「自然の芸術」。そのふしぎがまった科学絵本です。

5・6年生

『大天狗先生のマル秘妖怪学入門』



ちよとみやすようこ
著/富安陽子
少年写真新聞社

夜、部屋の明かりを消した後、暗い道を一人で歩いている時、何か近くにいるように感じたことはありませんか？ 暗闇に身を潜めこちらをうかがう者達を、人は妖怪と呼んできました。この本を読めば、その妖怪の歴史から封印方まで様々なことが学べます。

小天狗達と一緒に大天狗先生の授業を受けてみましょう！

『オーラのたび』



さく/ドーレア夫妻
(イングリとエドガー)
訳/吉田新一
福音館書店

山と森のくにノルウェーには、トロールやノームなどのようせいがたくさんすんでいるそうです。そんな森にすむ元気な男の子オーラ。オーラの光にさそわれて雪の中へとびだすと、あやまってかけからおちてしまいます…。

ノルウェーのしぜんやくらしが描かれた美しい絵は見ているだけで楽しくなります。

『そこから逃げだす魔法のことは』



さく/おかだじゅん
作/岡田淳
絵/田中六大
偕成社

おじいちゃんはおくに、「そんなあほな！」と思わずツッコミたくなるようなおもしろ話を聞かせてくれます。例えば、海賊を安全ピンで倒した話や、雪女ならぬ「雨女」の話…。

「ネコタツバアサン」はこたつの妖怪。そのネコタツバアサンから逃げだすための「魔法のことは」ってなんだったのかしら？

『ゾウと旅した戦争の冬』



さく/マイケル・モーパーゴ
訳/杉田七重
徳間書店

ある日のこと、介護施設で暮らすリジーが、看護師の私と息子のカールにゾウの話を始めました。

戦争中に動物園のゾウを預かっていたリジー一家は、爆撃を恐れ、突然故郷を離れることになってしまったのです。厳しい寒さと危険の中、リジーの家族とゾウのマレーネは支え合って歩き続けたのでした。